

令和7年度 教育計画（シラバス）

講座コード	学科名	学年	教科	科目	単位数	履修期間	必修修
N2101A R2101A J2101A	普通科 理数科学科 人文社会科学科	1	地理 歴史	地理総合	2	通年	○
教科書			補助教材				
高等学校 新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）			新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院）				
到達 目標	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 ・調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付ける。		・位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、説明したりする力を養う。		・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。		
学習の 評価	【知識・技能】 定期考査で、それらをはかる基本的な問いを設定し、その結果から評価する。 【思考・判断・表現】 定期考査で、資料を用いた問いを設定し、その結果から評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業や考査、課題への取り組みなどから総合的に評価する。						
学習内容（単元・項目）			学習到達目標（評価規準）				
第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界			・地図の役割や有用性を理解する。 ・位置や分布などに着目して、地図やGISの活用方法について考える。 ・国際社会における国家の役割を理解する。 ・位置や分布に着目しながら、地域間のさまざまな相互関係について考える。 ・交通や通信が発達し、観光客が増えたり貿易が拡大したりしたことによって、国際社会におけるヒト・モノ・カネの動きはどのように変化したかを考える。				
第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 第2章 地球的課題と国際協力			・場所や人間と自然の関わりなどに着目して、世界各地の生活文化の特徴を理解する。 ・生活文化の多様性の背景や変化の理由を考える。 ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題などの地球的課題を理解するとともに、その解決に向けては世界的な取り組みが不可欠であることを知る。 ・他地域との結び付きや地域の特徴などに着目しながら、持続可能な社会をつくるために、今後どのような取り組みが必要かを考える。				
第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 第2章 生活圏の調査と地域の展望			・自然環境の特徴を正しく理解する。 ・自然災害に備えた対策、課題の解決に向けて、人間と自然の関わりや地域の特徴に着目して、災害に強い地域づくりについて考える。 ・他地域との結び付き、地域の成り立ちや変化などに着目して、生活圏が抱える課題を探究し、社会参画の在り方について考える。				

令和7年度 教育計画（シラバス）

講座コード	学科名	学年	教科	科目	単位数	履修期間	必修修
N2102A R2102A J2102A	普通科 理数科学科 人文社会科学科	1	地理 歴史	歴史総合	2	通年	○
教科書			補助教材				
詳述歴史総合 (実教出版)			新詳 歴史総合 (浜島書店) 高校生のためのふるさと富山 (富山県教育委員会)				
到達 目標	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	中学校で習得した日本史の知識を基礎にして、近代・現代を中心とした世界史の概要を理解するなかで、改めて日本史を捉えられるよう、習得した知識を連携できるようにする。		授業等で習得した知識とそれらの連携から、文化の多様性、複雑な多国間関係を広い視野から考察し、今まさに展開されている事象の背景を理解し、重層的に判断できるようにする。		国際社会での出来事に関心を持ち、自らが解決を図るべき課題を見つけ、将来、民主的・平和的な社会の一員として「国際社会の恒久平和を希求する」自覚と資質を養う。		
学習の 評価	【知識・技能】定期考査で、知識・技能をはかる基本的な問を設定し、その結果から評価する。 【思考・判断・表現】定期考査で、史資料や地図等を用いた問を設定し、その結果から評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】授業や考査、課題への取り組みなどから総合的に評価する。						
学習内容 (単元・項目)			学習到達目標 (評価規準)				
・ 欧米の市民革命 ・ 条約改正と日清戦争 ・ 帝国主義と列強の展開 ・ 世界分割と列強の対立 ・ 日露戦争とその影響			・ 欧米の市民革命がもたらした世界への影響 ・ 日清戦争が日本、清、朝鮮の3国にもたらした変化 ・ 帝国主義政策が進められた理由 ・ 欧州列強がアジア、アフリカで展開した植民地獲得競争の展開 ・ 日露戦争の起こった理由と日本の勝利が各地に与えた影響				
・ 第一次世界大戦と大衆社会 ・ 国際平和と安全保障 ・ アジア・アフリカの民族運動 ・ 大衆消費社会と市民生活の変容 ・ 社会労働運動の進展 ・ 経済危機と第二次世界大戦 世界恐慌とその影響 ファシズムの台頭			・ 第一次大戦が起きた理由と各国の社会、国際秩序に与えた変化 ・ 第一次大戦後の国際秩序の枠組みとそれらの内容 ・ ヨーロッパ各国の内政に起きた変化 ・ 第一次大戦がアジア・アフリカ諸地域に与えた影響と変化 ・ 大衆消費社会の内実と日本における展開 ・ 「大正デモクラシー」の背景と日本の政治や社会に与えた影響 ・ 世界恐慌に対する各国の政策と、それらによる国際秩序の変化 ・ ファシズムが台頭した背景とそれらに対する各国の対応				
・ 恐慌と満州事変・日中戦争 ・ 第二次世界大戦と太平洋戦争 ・ 戦後の国際秩序			・ 日本で政党政治が断絶した背景と国際社会での日本の立場 ・ 日中戦争が国際社会に与えた影響と戦争が長期化した背景 ・ 第二次大戦の背景と経過、戦後の国際社会に与えた影響 ・ 第二次大戦から得た教訓と冷戦構造 ・ グローバル化の意味するところと日本 以上の項目について、理解した表現することを目標とする。				

令和7年度 教育計画（シラバス）

講座コード	学科名	学年	教科	科目	単位数	履修期間	必修修
N3101A R3101A J3101A	普通科 理数科学科 人文社会科学科	1	公民	公共	2	通年	○
教科書			補助教材				
詳述公共（実教出版）			2024 ブームアップ公共資料（実教出版）				
到達 目標	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。		よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。		
学習の 評価	【知識・技能】定期考査で、それらをはかる基本的な問を設定し、その結果から評価する。 【思考・判断・表現】定期考査で、資料や統計等を用いた初出の問を設定し、その結果から評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】授業や考査、課題でのとりくみなどから総合的に評価する。						
学習内容（単元・項目）			学習到達目標（評価規準）				
第1編 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる 第3章 民主社会の倫理 第4章 民主国家における基本原理			・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともにによりよい社会の形成に結び付くことについて理解する。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。				
第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格 第2章 日本の政治機構と政治参加 第3章 現代の経済社会 第4章 経済活動のあり方と国民福祉 第5章 国際政治の動向と課題 第6章 国際経済の動向と課題			・政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現することができる。				
第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち			・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述させる。 ・個人を起点として、自立、協働の観点から、多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら探究する。				